

学生大使 実施報告書

氏名:宗像健斗

学部・学科(コース)・学年:理学部・理学科・1年

派遣先大学:ベトナム国家農業大学

派遣期間:2025/2/25~2025/3/11

1 日本語教室での活動内容

日本語教室の参加者は、小学生程度の子供が2人とその父親、現地の大学生と社会人が数人いることが多かった。小学生2人は日本語能力試験に向けた対策、他の参加者は日本人学生との交流を目的としているようだった。そのため、小学生2人には日本人学生がそれぞれ1人ずつ交代で付き、そのほかの人でグループを作って会話をする形式をとった。

私が担当した小学生低学年程度の子は、自身で教材を持ってきていたため、その教材に沿った形で授業を行った。その子の日本語のレベルはひらがなが読めて、簡単な挨拶ができる程度であったため、主にカタカナの練習や天気などの単語を教える授業を行った。学習意欲が高いため、教材にない日本語の知識にも興味を持ってくれた。

グループでのコミュニケーションに参加した現地の方々は、日本語のレベルがそれぞれ大きく異なっていた。日本語での会話の練習をする人から、日本語を話す気がなく、英語を用いて日本の文化についての質問をする人まで、参加者の目的も様々であった。

日本語での会話を練習する人との交流では、分からない表現があるたびに英語や翻訳アプリを使って説明をする形式をとった。英語を使う人との会話は、それぞれの国の食事などの文化や、おすすめの観光スポットの話題が主であった。

グループでは会話だけでなく、絵しりとりやかるたを用いたリクレーションも行った。どちらも日本語の単語や表現を楽しく学べるという点で効果的だったと考える。日本語の学習意欲が高い方ほど、盛り上がってくれたように感じる。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外に、ベトナム国家農業大学の英語の授業と、日本に技能実習生として来る準備をする方のための授業にも参加させていただいた。

英語の授業では、5~7人くらいの現地学生のグループに入り、英語でのコミュニケーションの練習をした。英語のレベルは様々であったが、ほとんどの人がベトナム語を使わずに英語で話してくれたため、会話に参加しやすかった。この授業でも日本の文化と簡単な日本語を紹介する機会をいただいた。会話の中で、紹介した日本語を話してくれる方がいて嬉しかった。

技能実習生とは日本語で会話をした。全体的に日本語のレベルは高かったため、日本の名所などの話題を話すことができた。

授業以外では、1回目の週末にハノイ、2回目の週末にはハロン湾に案内していただいた。

ハノイではホー・チ・ミンミュージアムやトレインストリートなどの有名な観光地に行った。ホー・チ・ミン

【学生大使 実施報告書】

ミュージアムでは、日本とは全く異なったベトナムの歴史観に触れることができた。後に行ったホー・チ・ミン氏を祀った神社やミュージアムで保存されている亡骸、あらゆる場所に飾られている写真などから、ベトナム人にとってホー・チ・ミン氏が特別な存在であることが感じられた。ベトナム人と話す中で、政治に対する関心も日本人のものとは性質が異なりそうだと感じた。トレインストリートなどの観光地では、日本であまり見ることができない混沌とした活気を目にすることができた。

ハロン湾では大規模なカルスト地形、鍾乳洞を見ることができた。ベトナム国家農業大学に手配していただいたガイドさんが、翻訳アプリを使い詳細な成因を説明してくれた。世界的にも珍しい地形であるため、大変興味深かった。

このような観光地に行くことで、案内役のベトナムの方々との親しい関係を作ることができた。多くのベトナム人が、私たち日本人学生に好意的に関わってくれたことがとても嬉しかった。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私は目標「多様な価値観などに直に触れることにより、自らのそれらを対象化できるようになる。」について、十分に達成できたと感じている。努力した内容は、現地の人との会話の中で、不思議に思うことや意外に思うことがあった際に、できるだけその背景などについて質問をするということである。このことにより、今まで当然と思っていたことが、日本特有のものであるのだという気づきを得ることができた。

特に印象的であったのが、結婚の適齢期の違いである。現地の方の、20代前半に結婚できないことに劣等感を感じる人もいる、という話が印象的であった。日本人よりも、若いうちに結婚をしたいという願望が、ベトナムの方が強い傾向にあると思う。逆に日本の結婚の文化は、特異なものであるのかもしれないと感じた。

また、目標「外国人とのコミュニケーション能力を向上させることができる。」については、もっと努力をする必要があると感じた。理由は、日本語を話せないベトナム人と、英語で話す機会があった際に、何と言ったら伝わるのかが分からなく、悔しい思いをする場面が多くあったからだ。しかし、翻訳アプリの使用や簡単な英語への言い換えによって、伝えることができる場面も多くあり嬉しく感じた。

4 プログラムに参加した感想

観光地だけでなくローカルなベトナム人の文化に触れることができたという点で、大変貴重な経験になった。ベトナムに行く前と行った後で、ベトナムの印象が大きく変化したということからも、このプログラムを通して多くの気づきを得ることができたと感じる。

ベトナムに友人を作ることができたことも、大変嬉しく思う。このプログラムに参加していなかったら出会わなかった人と、繋がりを作ることができた。今回知り合ったベトナムの方が、日本に来た時には是非日本を案内したいと思う。そして、私もまたベトナムに行きたいと考えている。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

上記の発見と気づきから、実際に現地に足を運び現地の人と交流することで、初めて分かることが多くあると感じる。そのため、今後もこのプログラムのような異文化交流の機会に積極的に挑戦していきたいと考える。その際、このプログラムで得たコミュニケーション能力を発揮して、現地の人との関係

【学生大使 実施報告書】

構築を図りたい。また、近頃日本に訪れる外国人が増加している。そのような方々と接する際も、それぞれの人が異なる文化的背景を持つことに留意して、自分と異なる文化に寛容でありたいと考える。

6 現地での活動写真

写真1

英語の授業での日本語紹介



写真2

観光地 Grand World ハノイ



写真3

ハロン旅行2日目 昼食



写真4

ハロン湾 スンソット洞窟 集合写真

